

子どもの自主性を大切に 過保護、過干渉は逆効果です

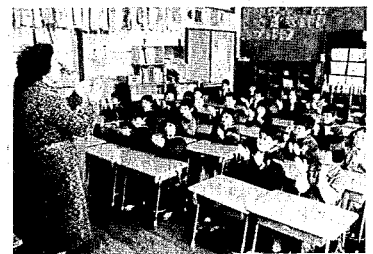


招かれて、小学校や中学校の講演によく出かけるのですが、朝礼などで、校長先生のあいさつ中に、立っていられなくなって倒れる子どもを何人か見かけました。いまの子どもの体は、ひところに比べて体格はグンとよくなっているのです

新学期が近づきました。新しく入園、入学するお子さんをお持ちのご家庭では、喜びに満ちた期待感でいっぱいのことと思います。豊かな心と丈夫な体をもった子どもに育ててほしいというのが、私たち親の切なる願いです。新学期をひかえて、子どものしつけにスポットを当ててみました。

過保護—* 自己中心 になりがち

何ごとも「過ぎたるはなお及ばざるがごとし」です。過保護にすると、子どもは自己中心的で自分勝手な行動をとることが多くなり、学校などの集団生活に必要な協調性を欠くようになります。また「世話のやきすぎ」は、子どもが自分で考え、行動す



過干渉—* 二面性をも つた性格に

しつけを「習慣づけ」と考えると、ある面では、半ば強

何よりも丈夫な体を

佐々木 信也 (野球評論家)

がないことですが、健康第一に育てなければ、と思えます。勉強するにも、体力がなないと続きませんからね。理想的には、丈夫な体と豊かな心—バランスのと

れた人間に育ってもらいたいというのが、親たるもの共通した願いでしょう。とはいうものの、実際には、あれもこれもと多くの夢や望みを子どもに託しているのがよいと思うのです。おき方が変わってくるのは当然でしょう。私は、二人の子どもを持つ親としての体験から、小・中学校時代は、体力づくり

もう1年生みたい、

もうりっぱな1年生だよ、——と言わんばかりにチビっ子たちが勢ぞろい。これはさる1日、第二小学校で行われた「仮入学式」の様子です。新学期の話を聞いた後は、みんなで歌ったりして一足早く1年生の気分を楽しみました。

制的にならざるを得ないことがあられるも確かです。ことに幼児期には、厳格なしつけ、干渉は、子どもの人間形成にとつて極めて重要な意味をもっています。ただ、問題はその度合いです。厳しすぎる強制過干渉は、過保護と同じように、子どもの性格形成にいい影響を与えない場合が多いようです。子どもは、親のいう通りにしないといふかられる、ときには体罰をも加えられるということがとになると、親の前では服従的で、素直な「よい子」になろうとします。自我をおさえ主張をかくし、悪くすると「二面性」をもった性格にならなるとも限りません。あくまでも、子どもの自主的な行動を促す程度にとどめるほうが、しつけのコツといえるでしょう。

お買物、ご用命は市内で

新津市代表二大銘菓 松坂踊り・新津松坂 新津菓子協同組合

人生の門出、永遠の愛を誓う二人のために……

御婚礼用和洋菓子一式

御婚礼の際はお近づきの菓子店にお早めにご参来ください。如何様にも御相談・御説明申し上げます。

